

トップメッセージ



経営環境

「存亡の危機にある地域銀行」、「地域銀行はどうなってしまうのか」——数年前から地域銀行の経営の厳しさを指摘するこのような声が聞かれるようになりました。確かにわが国経済は全体として低成長を続けており、大規模な金融緩和の下で、お客さまの資金需要にかつてのような勢いはなく、主な活躍の舞台が、人口減少や高齢化の影響をより強く受ける「地方」となる地域銀行は、概して厳しい経営環境にあると思います。

第4次経営計画に込めた思い

では、地域銀行の存在意義は失われつつあるのか。私たちトモニホールディングスグループが、逆境を跳ね返して成長を続けるためにはどうしたら良いのか。これが、数年前に当社グループの経営計画を策定する際、取締役会で議論を重ねたひとつの論点でした。現在の第4次経営計画のキャッチフレーズは「変わる“トモニ” 変わらぬ“ともに”」—— 私たちが辿り着いた答えです。すなわち、「お客さまを第一に考え、お客さまとともに成長する」というグループ設立以来のビジョンは堅持し、変えることなく、しかしそれを実現する手立ては、必要に応じて柔軟に変えていく——これが、トモニホールディングス・第4次経営計画に流れる基本的な考え方ということになります。

第4次経営計画の進捗状況

今から12年前の2010年に、当時としては珍しい「将来を見越した戦略的な経営統合」を実現した意思と行動力は、現在の当社グループの役職員にもしっかりと受け継がれています。今年はその第4次経営計画の最終年度となりますが、この期間中に例えば法人ビジネスの世界では、銀行の本源的な仕事である「資金をお預かりし、必要な先にお貸しする」という機能を基礎としながらも、販路拡大や事業承継、補助金申請や福利厚生のお手伝い、人材不足への対応、SDGsへの取り組み支援等、お客さまが抱える様々な課題とともにチャレンジし、解決していく取り組みを質量ともに充実させてきました。良質なサービスをお届けするために業務提携した各分野のエキスペートは170先を超えています。こうした取り組みは私どもの収益にもプラスの影響をもたらしており、令和3年度の役務取引等利益は、経営計画スタート直前の平成31年度のそれを3割以上上回る水準となっています。

営業現場の最前線におけるフットワークがよいことは、傘下にある徳島大正銀行・香川銀行の両行に共通した強みです。私自身、お客さまとの懇談会で「豪雨で川が氾濫した翌朝、営業所に向いてみたら、既に御行の行員が復旧に向けて活動を開始していた」と感謝のお言葉を頂戴したことがあります。新型コロナウイルス感染症に際しても、その昔から変わらぬ行動力を活かし、2万8千を超える取引先の業況のタイムリーな把握に努め、資金繰りに万全を期しました。また、必要な先に対しては、組織を挙げて、ウィズコロナ・アフターコロナを展望したビジネス再構築や財務改善等をご提案し、精力的に取り組みました。令和3年度の当社グループの与信関連費用がグループ設立以来2番目に低い水準に留まった背景には、マクロの経済環境や各種公的サポートの影響が寄与した部分が大いと思いますが、同時に、営業の最前線でお客さまとしっかりと向きあい、膝を突き合わせ、ともに難局を乗り越えるべく積極的に取り組んだことが、奏功している面もあると考えています。

私たちの存在意義

「地方」には人口減少・高齢化、産業構造の変化等、様々な課題があります。他方でコロナ禍を経験し、分散型社会の重要性が叫ばれる現在、「地方」には大きな可能性もあります。この点、私どもには長年にわたり地域で活動したことで培われた「知見やネットワーク」、そしてお客さまにひたむきに接する「熱い人財」が数多くいます。そうした私どものリソースを活かし、地域やお客さまとともに成長を実感し続けることこそが、私たちの存在意義だと思います。「従来の枠組みを超えて、自由な発想でお客さまの課題解決に立ち向かうことができる地域銀行は可能性のかたまりである。そしてその可能性を泥臭くてもよいので、地道に実現していくことが責務でもある」と、私は考えています。

更なる飛躍を目指して

現在、わが国では、予想以上の長さや深さとなったコロナ禍の克服には至っておらず、加えてロシア・ウクライナ情勢や資源価格の高騰等により、不透明感、不安定性がかなり高まっているように思います。こうした状況を踏まえ、第4次経営計画の最終年度となる令和4年度は、当社グループ経営ビジョンの3つ目の柱である「信頼と安心の経営」を再確認し、アンテナを高く、リスクにしっかりと備え、信頼を基礎としたより強固な経営基盤を構築していきたいと考えています。

さらに、第4次経営計画のキャッチフレーズである「変わる“トモニ” 変わらぬ“ともに”」を一段と推し進め、来るべき次の時代に向け、「地域が、そしてお客さまがより良き方向に変わる」お手伝いに磨きをかけていきたいと考えています。

みなさま方には徳島大正銀行・香川銀行をはじめ、トモニホールディングスグループを引き続きお引き立ていただければ幸いです。更なる飛躍を目指し、努力してまいります。

令和4年7月

代表取締役社長兼CEO 中村 武